

7. 由良神社文書調査

岸 泰子

1. 概要

歴史学科では、文化遺産学コースを中心に地域貢献型特別研究 ACTR で北前船の船持や船頭を多く輩出した宮津市由良地区の特性を見いだすべく文化遺産の総合調査をおこなっている。今年度は、研究課題「由良川がつなぐ海と森の京都―宮津市由良地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用―」（代表 横内裕人）のなかの一事業として、神社が所蔵する文書調査を実施した。

2. 内容

2022 年度は、以下の日程で調査を実施した。

日程 2022 年 7 月 8 日（金）・9 日（土）

参加者 岸泰子（教員）

宮田匡（史学専攻 博士前期課程 1 回生）、松岡茉陽琉・川西優帆（歴史学科 4 回生）

大串香織・鈴木綾音・鈴木優花・林田実佳（歴史学科 3 回生）

今回は、新たに新たに神社で発見された史料について、調書を作成し、写真撮影を行った。今回発見された史料は、神社内で他の文書とは別に保管されていた。内容は、近代以降の社殿の造営・修理に関する史料、由良神社と軍との関係を示す史料であった。前者については神社として重要書類と認識されていたために、別置されていたのだろう。一方後者に関しては、戦後に軍との関係を一時的に公にできないために別置とされた可能性がある。

これらの調査の成果として、これまでの文書調査の成果とあわせて、次年度に由良神社所蔵文書目録を刊行する予定である。



調査風景

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
